

(様式1)

令和2年度 試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 44	提案機関名 農業技術センター普及指導部
要望問題名 施設トマトにおける環境制御技術導入に向けた施設改修モデルの作成	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 近年施設トマト経営における環境制御技術の導入への関心が高まっているが、経営規模については現状維持の意向を持つ生産者がもっとも多く、既存施設を前提とした技術の導入を志向している。 しかし、施設整備は平均築年数が25年の大型鉄骨ハウスが主流であり、老朽化が進んでいるため環境制御機器を導入しても効果が期待できない施設も多い。特にガラスハウスや軒の低いハウスの老朽化が問題になっており、撤去費用がかさむため改修がままならないのが現状である。 そこで、環境制御技術を導入するために必要な既存施設の改修経費(施設のタイプと老朽化程度別)や、メンテナンスも含めた改修モデルを作成していただき、現地に提案できるようお願いしたい。 対象：県内施設トマト生産者	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	企画経営部
対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) IV-1 (3) トマト栽培における環境制御システムの現地検証、経営評価 エ 規模拡大志向に対応する既存ハウスのリノベーションの経済性の検討		
対応の内容等	R1年度から、上記試験研究課題の中で、「規模拡大志向に対応する既存ハウスのリノベーションの経済性の検討」に取り組んでいます。使用しなくなった園芸施設(空きハウス)を借り受けリノベーションした事例や、既存ハウスの軒高を上げた事例等について、調査を行い、施設改修経費の目安を提示し、規模拡大における経済的な有効性を検討する予定です。 上記内容は、使用しなくなった園芸施設の活用が、規模拡大志向の経営体の施設導入コストの負担を低減する策として重要であるという視点から課題を設定しています。ご提案頂きましたように、老朽化した施設を所有している経営体にも活用頂ける内容とするため、施設改修経費に加え、その後のメンテナンスに係る経費等も含め、リノベーションの経済性について検討したいと思います。		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			